

# 幕末維新时期にみる社会変動と知的欲求

## Social fluctuation and intellectual desire seen

### in the end of the Tokugawa period

岩武 光宏

Mitsuhiro Iwatake

#### 要旨

わが国は明治維新150周年を迎えた。巷間、数多くのイベントやメディアによる喧伝によって一部の歴史マニアの間では、ある種のムーブメントの様相が散見された。それは静かな高揚感をもって迎えられた節目でもあった。しかしながら、明治維新の本質には光と影があり、今なお歴史観の相克を国民に問い続けている。すなわち時代における葛藤とその超克とは、地域のイデオロギーを生成する根源となり、さらには猛烈な知的欲求へと収斂進化されたものが少なくない。本稿では、「新・旧システムの角逐があった地域に知的欲求の高まりがみられ、やがてそれが建学のダイナミズムに繋がる」という筆者の仮説を裏付ける根拠を具体例と共に述べてみたい。

キーワード：私立大学 時代的葛藤 知的欲求 建学の淵源 現実形成力